



遠藤幸子議員

高齢者の食は大丈夫か

情報の発信が必要

問 高齢化が進み、医療費が増加傾向にある今日、

予防の大切さが言われている。検診、介護予防教室などの取り組みがなされているが、食に関してはどうか。現在高齢者の栄養失調が増えていると聞くが、調査をしたことがあるか、簡単な料理講習はできないか。

答 (山口町長)

食に関する調査は特に行ってないが、基本健診の食の設問時に問題があれば、医師・保健師・栄養士がアドバイスをしている。

料理講習は「日常生活関連動作訓練事業」として、調理実習、栄養改善の指導をしている。昨年

は22回開催し、250名の参加があった。

また、食生活改善推進委員さんが、各部落で町の委託事業として、料理教室を実施している。

自分では十分な料理が

できない高齢者に対しては、バランスのとれた配食サービスを利用してもらっている。高齢者の皆さんには、色々な事業や、機会を積極的に利用しながら自らの健康づくりのために、食生活改善を心がけていただきたい。

本当に意識を持って聞いてほしい、来て欲しい人はなかなか来られないのが現状である。いろんな場面を通して、食の大切さ、高齢者にとっても食事は大事であることを理解してもらえような

情報の発信が必要と考えている。



高齢者の料理教室

集落営農の支援は

今後の支援はする



秋田美喜雄議員

問

農業政策が大きく変わり、担い手と集落営農に集約されつつある今日、農家にもとまどいが見受けられる。集落によって、集落営農に向けての話し合いがなされているようであるが、行政としてはどのような対応をしているか。また、農業委員会の役割も非常に重要と思うが、今後の対応や考えは。

答 (山口町長)

今回の農政の改革により集落営農に関心を寄せる集落もある。個別に説明を要請される意欲的な集落については、「大山町地域担い手育成総合支援協議会」の構成員である町、農協、普及所等が集落へ出向いて説明を行っている。今後、高齢化等による農地の出し手の増加が予想され、受け手のない農地の遊休化が懸念される。地域の農業は地域の農業者で守っていくことができるように、



集落営農で農地を守る

話し合いの場が必要と考えている。町内の各集落において、集落営農組織を含めた担い手の育成や確保が必要であり、各種事業及び制度と併せて、推進と支援に町としても取り組んでいく。

農家が農地を守り、農地を活用していく。そういう農家政策の根幹にある部分に関しては、農業委員会ですっきりと議論をし、農業委員が中心となっていくことが農業委員会の役割であると思っている。